

Risk Management Report

[防災調査の現場から 第1回]

皆様が抱えているさまざまなリスクに対し、最適な保険をご提供するとともに、リスクそのものを軽減するための解決策をご提案しています。
今回は、防災対策についてのご提案です。

防災上のご提案

屋内消火栓用ノズルとして可変噴霧ノズルをおすすめします

安全に火元へ有効に注水できることが期待できます。

また、半導体製造工場、精密機器製造工場などのビル型工場では、上階が万一出火した際の階下への水濡れ被害を軽減することもできます。

工場の屋内消火栓は、まだ右の写真の右のようなストレートノズルが配備されており、このストレートノズルによる棒状注水が主力になっています。

屋内消火栓用ノズルとして右の可変噴霧ノズルの設置をお勧めします。



噴霧注水のメリット (棒状注水と比較)

操作性

[安全な放水が可能] ●放水時の反動が少ない ●水噴霧によって火炎の輻射熱を防護できるため、火元に比較的近づきやすい

消火効率

霧状になることで熱吸収効率が高くなり(気化潜熱)、冷却による消火効果が期待できる

適応火災

- 油(B)火災に有効:油を飛散させずに油面を覆うことができる
- 電気(C)火災の感電危険が少ない

その他

- 建物、機械設備の破損軽減:放水圧による破損を軽減できる
- 水濡れ損害の軽減:消火効率が良いため、少水量で消火できる

噴霧注水のデメリット

- 射程距離が短い:火災が拡大する状況では棒状注水が有効
- 屋外消火栓には適さない:水噴霧は風の影響を受け易く強風下では火元に的確に注水しにくい

その他、防災上では

- 精密工作機械、電算機器には消火薬剤による汚染のない消火器を配備しましょう
- 公設消防に供する構内の消防水利には有効水量を表示しましょう
- 臨時火気管理：喫煙管理と溶接・溶断作業の出火危険性について
- 耐久試験室、寿命試験室へのスプリンクラー設備のすすめ

今後予定しているテーマ

防災に限らず、リスクマネジメントに関する幅広いテーマを選択

- JIS Q 31000 (ISO31000) リスクマネジメント規格
- 災害復旧支援サービス
- 新型インフルエンザ対策
- BCP (事業継続計画)
- サプライチェーンマネジメント 等